

✓ファイル ⑥

広島駅弁当株式会社

工場内での業務や本社屋の清掃分野で障害者を多数雇用



企業情報

明治34年（1901年）、広島駅でのお弁当事業を開始。被爆後、広島市の建築許可第1号となる本社工場再建など多くの困難を克服し、全国の駅弁ファンに愛される「活あなごめし」など、旅の楽しみには欠かせない駅弁づくりから、各種コンベンションやイベントなどにおける予約弁当事業、さらに、高齢者配食事業、コントラクトフード事業（契約施設でのフード事業）などに取り組んでいる。今後も地域連携を深め、地産地消を推進し、地域の皆様に愛される地域統合食文化企業を目指す企業。



旧本社工場



現本社屋

PROFILE

- ◆所在地 広島市東区矢賀5丁目1-2
- ◆代表者 代表取締役 中島 和雄
- ◆電話番号 (082) 286-0181
- ◆常時雇用労働者数 1,100人
- ◆障害者雇用数 11人

佐藤総務部長さん、人事担当安永さんにインタビュー

Q. 障害者雇用にどのように取り組まれましたか？

企業の社会的責任（CSR）や地元を活性化するために、障害者雇用については常に意識を高く持つようにしていました。随分前から障害者雇用の取り組みをしていますが、一番勤務年数長い社員は平成14年（2002年）入社で福祉事業所からの紹介だったと思います。現在、配送や社員食堂の厨房での調理補助として身体障害者の方を4人、社屋内の清掃やラインでの盛り付け・包装（ラベル・シール貼り）作業のために知的障害者の方を7人雇用しています。平成21年度から特別支援学校の卒業生を随時受入れていますが、社屋内の清掃をしている2人は広島労働局などが実施している障害者合同面接会を経て採用しました。



佐藤部長さん

Q. 障害者を雇用する上で配慮されていることは何ですか？

「知的障害」と一言と言っても、人によって様々なので、その人それぞれに合った対応をしています。例えば、人間関係やコミュニケーションで支援が必要な社員には、総務部が援助に入り、直接話を聞いたり、交換日記をするなどして心の安定を保っています。また、清掃部門の社員とは、業務開始時と終了時の報・連・相のやりとりや日誌で情報交換するようにしています。

Q. これまでに何か失敗例はありますか？

以前、弁当の製造現場で知的障害者を雇用していましたが、作業にスピードと正確性が求められたため、本人にかなりのストレスがかかり、また、指導するスタッフにも負担となって、業務効率が低下するという問題が発生しました。他に知的障害者ができる仕事はないかと社内で検討を重ね、社屋内での清掃であれば総務部の社員が本人に関わって職場定着できるのではということになり、(株)HandS (旧(株)第一ビルサービスハンズ事業部) に支援をお願いして、清掃分野での雇用に向けた取り組みを始めました。(株)HandSの方には、清掃の時間設定やマニュアルの作成、実習時や採用後の清掃指導(2週間)をお願いしましたが、今でも定期訪問で定着支援や技術面の指導をしてもらっています。

失敗例と言えば、当初、清掃担当の二人には、同じ内容の作業を同じ時間に行ってもらっていましたが、二人で足並みを揃えて仕事をする事は難しいようで、完全に役割を分担し、それぞれのペースで仕事をしてもらうようになり、スムーズに業務を行えるようになりました。知的障害者の方は、相手のペースに合わせて仕事をする事は負担になることを知りました。



安永さん

Q. 障害者雇用に関して独自の取り組みはありますか？

清掃担当の一人が少しずつ仕事に自信を持つことができ、アビリンピック大会(ビルクリニック)に参加するという目標を持って頑張っています。(株)HandSの方にご協力をいただいておりますが、社としても全面的にバックアップしたいと考えています。

Q. これから障害者雇用を検討される企業にメッセージをお願いします。

障害をひとくくりとして見るのではなく、一人一人に合ったサポートを心掛けることが大切ではないかと思います。これからも障害者雇用については、その時々で柔軟に対応したいと考えています。



職場訪問



包装



食材詰め



容器洗浄



清掃